

1. 策定の目的

平成 22 年に策定した現指針が計画期間である 10 年を経過したことから、10 年間の取組を振り返り、この間の社会情勢、技術の進歩、市の施策を踏まえ、次の 10 年に向けて取り組むべき事業や方向性を整理し、新指針を策定する。

2. 新指針に向けての考え方

- ①現指針で掲げる理念「泉北ニュータウンのまちの価値を高め、次世代に引き継ぐ」は、泉北ニュータウンに関する取組の普遍的な理念として、新指針においても継承するとともに、取組により実現される泉北ニュータウンならではのライフスタイルである「泉北スタイル」の考え方を大切にして、新指針においても継承する。
- ②この 10 年間で進展した新たな視点である、SDGs の理念実現、スマートシティの推進、健康長寿のまち、職住一体・近接ライフスタイルの促進や、20 年後の堺がめざすべき将来像を共有した「堺ブランドデザイン 2040」の実現といった観点を付加する。
- ③新指針では、市民の自らが計画づくりに参加し、行政とともに主体性をもって実行していく機運や体制を築いていくことを大切にするため、計画づくりの段階から市民が参画できる機会を増やし、策定後においても、実生活において「自分事」として取り組むことができるような構成としていく。また、市民にとって分かりやすく理解しやすいように、ビジュアル面やデザインにも配慮した構成とする。
- ④新たな視点も踏まえた持続発展可能なまちをめざすため、新指針では、「再生」という衰えたものが生き返るという概念ではなく、発展的に成長する意思を体現する計画名称を検討する。

3. 新指針の取組期間

新指針は、今後 10 年間の取り組むべき方針として取りまとめる。

方針のまとめ方については、現指針に習い、現状把握できている課題からの方針を設定する方向と、将来のまちやひと、社会の理想の姿をイメージし、そのイメージを実現する方針を設定する方向の 2 方向から考える。

【図 新指針の取組期間の考え方】

